

博士最終試験報告書

2024 年 1 月 31 日

総合リハビリテーション学研究科長 殿

審査委員 春藤 久人
審査委員 岩井 信彦
審査委員 松原 貴子



博士最終試験の結果を下記のとおり報告します。

記

氏 名	論 文 題 目	評 価
服部 貴文	変形性膝関節症の疼痛特性と運動療法の効果検証	合

以上

博士論文審査結果報告書

2024 年 1 月 31 日

論文提出者		論文審査担当者	
専攻領域	リハビリテーション科学領域	審査委員（主査）	春藤 久人
専攻分野	基礎生体機能・病態解析学分野	審査委員（副査）	岩井 信彦
氏名	服部 貴文	審査委員（副査）	松原 貴子
論文題目			
変形性膝関節症の疼痛特性と運動療法の効果検証			
審査結果			
<p>本研究は、変形性膝関節症（KOA）の疼痛特性について関節構造変化に加えて定量的感覚検査（QST）を用いて横断的に検証するとともに、運動療法の治療反応性に関連する要因を抽出し、その予測能とカットオフ値を算出することにより運動療法の効果を縦断的に検証したものである。その結果、関節構造変化に加えて、膝関節および遠隔部の痛覚過敏を呈する KOA 患者では、疼痛症状が重篤であるとともに、運動療法による治療反応性が低下しており、末梢および中枢神経系における痛覚過敏（末梢・中枢感作）が強く関与していることが証明され、末梢・中枢感作が、慢性関節痛の重症度のみならず、運動療法の治療反応性の重要な予後予測因子であることが示唆された。さらに、QST が、KOA 患者に対する運動療法の治療反応性の予後を高い精度で予測することができ、病態に応じた治療法の選択の一助となると結論している。これらの知見は、標準的な運動療法が奏功しない KOA 患者に対して、病態に基づいた新たな介入戦略を検討する上で、QST を用いた末梢および中枢感作の診断が有力なツールとなることを示唆するものである。</p> <p>提出された論文は、KOA 患者の慢性関節痛の病態解明、および治療反応性に関する予後予測因子解析のいずれにおいても新規性に富んだ重要な知見を集積しており、価値ある業績であると認める。</p> <p>論文審査において服部貴文氏は、論文の内容を適切に説明し、主査、副査からの質問に対して的確に回答した。</p> <p>以上より審査委員は、服部貴文氏を博士の学位を得る資格があると認める。</p>			
		審査委員（主査）	春藤 久人

